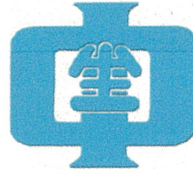


長 坂



平戸市立生月中学校
学校だより第 8号
(令和元年 6月)

文責 西澤 庄藏

戦没者追悼式に参列し、しばし「平和のメッセージ」に聞き入りました。

06/02(日) 町内の開発総合センターにて戦没者追悼式が行われました。来賓として列席しましたので、その様子的一端をお伝えします。その一端とは、中学生の「平和のメッセージ」についてです。メッセージに託した平和を願う気持ちに感化されました。

「戦争のない世界へ」

僕は今までに戦争についてたくさんのことを学んできました。一人に一つしかない命。その命がまるで将棋の駒のように扱われ、初対面の人々が互いに命を奪い合う、それが戦争です。かつて日本も戦争をしていました。この生月の地からも戦争に行き、戦って命を落とした方々がたくさんおられます。また、家族を亡くし、悲しい思いをされた方々もたくさんいらっしゃいます。そして、今もなお、世界のどこかで戦争が起こっており、新たな悲しみや憎しみが生まれています。

その一方で、平和の実現のため、ご尽力されている方々もたくさんいらっしゃいます。僕たち生月中学校の3年生は昨年度の修学旅行で大刀洗平和記念館に行きました。そこで出会った語り部の方から、特攻隊のことや平和の大切さについて、多くのことを教えていただきました。これから大人になる僕たちにできることは、戦争を経験された方々のお話を聞き、戦争について知り、同じような過ちを繰り返さないという意味を心に刻むことです。そして、その思いを後生に伝えていくことが私たちの使命です。

戦争体験者の方が少しずつ少なくなっている今こそ、戦争の悲惨さと平和の尊さについて、一人一人がしっかりと考えて行動しなければいけないと思います。「家族と一緒に家で過ごす」「ご飯を食べる」「毎日、学校で友達と勉強する」そのようなことが「当たり前だ」と誰もが言える幸せな世界を、僕たちの手で作っていきたいです。

平戸市立生月中学校 3年 塚本 怜哉

学校では8・9平和祈念集会に向けて学年ごとに平和学習を行っています。さらに、2年生では修学旅行でも、昨年度同様、筑前町立大刀洗平和記念館(福岡県)を訪れて平和学習を行う予定です。今後も「平和」を考える日々が続きます。

家庭学習は継続してできていますか。ご家庭でお子様の様子はいかがですか。

05/26(日) 付け西日本新聞の1面「ゲーム障害 新依存症」の見出しが目を引きました。世界保健機関(WHO)総会でオンラインゲームやテレビゲームのやり過ぎで日常生活が困難になる「ゲーム障害」を新たな依存症とした国際疾病分類【最新版】を承認したという記事です。アルコールやギャンブルの依存症と並んで治療が必要となる疾病となるということです。

新聞には、ある高校生の手記も掲載されていました。

高校の部活動でコミュニケーションがとれず、勉強にもついていけなかった。劣等感や不安がつきまとう中、出会ったのが他の参加者と楽しむオンラインゲームだった。誰かと何かを共有できる安心感を得たい気持ちから、はまっていった。

やがて日常生活の大半を占めるようになり、多額のお金をつぎ込んで借金を抱えてしまう。「やめるぐらいなら死んだ方がましで(当時は)生きるために必要と思っていた」と振り返る。

転機が訪れたのは5年前。依存症からの回復を支援する団体「ワンネスグループ」の施設に入った。同じ境遇の人たちは、依存症を批判せず、苦しみを分かってくれた。現在、スタッフとして支援する側に立つ。

学力の定着と向上は、学校の授業だけでなく、家庭学習が継続的に充実することで(学びがつながり)達成できると考えます。ゲームそのものを否定するつもりはありませんが、けじめを付けて、勉強に専念できる時間を作ってほしいと切に願います。ゲームが深夜に及んだ結果、朝もギリギリ登校が続くという「不規則生活」に陥っている生徒は少なくないという危惧している昨今です。



←写真は、5月の活動を振り返っての専門委員長の報告、中総体を振り返っての各部活動キャプテンの報告の様子です。

中総体(球技・武道)の終了に当たり、今こそ、日々の生活を見直すときだと強く思う境地です。